

2024年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

書式 1

(適宜行追加可)

受入担当	所属・職	国際学部・教授
教員	氏名	志甫 啓
海外客員	所属・職	ニューヨーク州立大学オールドウェストバリール校社会学部・准教授
教員	氏名	山本 僚子
招聘目的	1. 授業担当及び研究 2. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2024年 9月 20日 ~ 2025年 1月 19日	
成果報告 以下の内容を日本語で記載して下さい。	(1) 授業科目名 (A) Special Topics in International Studies A: Global Sociology (B) Special Topics in International Studies B: Boundaries and Deviance (2) 授業担当の成果 Global Sociology (登録19名): The World as a System、Global Movement of People、Globalization of Culturesの3つのテーマを柱とし、社会学的な視点からグローバル化を分析した。学生は毎週リーディング・ジャーナルを提出して授業に備え、期末のレポートではより包括的なレビューを行った。コースの要であるHistory of the Present Projectでは、個々の学生が植民地化を経験した国・地域を選び、文献に基づいて歴史的背景と植民地化の長期的影響を分析した。研究レポートの提出に加え、口頭で中間報告と成果発表を行うことで、互いの研究成果を学ぶとともに、植民地主義の影響を俯瞰的に考察する機会を持った。留学生の多いクラスであり、授業のテーマにも関連することから、森興産(WA. SA. Bi)の講師を招き、CIECとキャリアセンターとも連携して、英語話者のための留学生就活セミナーを行った(11/27)。 Boundaries and Deviance (登録18名): Perspectives on Boundaries and Deviance、Stigma and Stigma Management、Racialization in Japanの3つのテーマを柱とし、社会規範と逸脱に関する社会学的概念と実証研究を学んだ。学生は毎週リーディング・ジャーナルを提出して授業に備え、期末のレポートではより包括的なレビューを行った。加えて実験レポートとインタビュー分析のふたつの課題を通し、社会規範とスティグマが個人に与える影響を具体的かつ主体的に考察する機会を持った。 (3) 研究の内容 改定入管法の大学国際化・高度人材パイプラインへの影響 2019年の入管法改定では特定技能の在留資格が設置され、国際移住労働者受け入れの法的枠組みとともに、スキル・技能の定義をも拡大した。この政策転換の留学生及び大学の国際化への影響を探るため、文献研究と内容分析に向けてのデータ収集を行い、留学生を対象とした企業説明会での参与観察を行った。またアジアの高度人材移住に関するワークショップ(11/2、東京大学)とセミナー(11/22、神戸大学)、及び移民政策学会(12/7、南山大学)に参加し、意見交換を行った。 (4) 研究の成果 10月23日に国際学部教授研究会にて「異文化としての大学」と題して報告(要旨は2025年3月刊行の『国際学研究』第14号所収)。 - フォトエッセイ “Japan’s Demographic Changes and Opportunities: A Tale of Two Cities” (Forthcoming, Asia Pacific Perspectives) - 外国人留学生の同窓ネットワークに関する共同研究の立上げ。	

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

* 本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます